PRESENT STATUS OF SR LIGHT SOURCE AND 45 MeV LINAC

N.Kaneko, M.Yamamoto*, O.Azuma, H.Iwata, H.Isa**, T.Nakashizu and Y.hoshi

Ishikawajima-harima Heavy Industries Co.Ltd.(IHI) *The Graduate University for Advanced Studies **Isikawajima Inspection and Instrumentation Co.,Ltd(IIC)

ABSTRACT

A 45 MeV linac has been developed by IHI as an injector of the compact synchrotron radiation light source. The constraction of SR system, called LUNA, was completed in 1989 at Tsutiura facility of IHI, and now several experiments for X-ray lithography are in progress. The system is now being operated successfully.

IHI SOR光源と入射器用45MeVリニアックの現状

1 はじめに

IHIでは産業用途に使用する小型シンクロトロン放射光装置の開発を目的として、 茨城県の土浦実験場に社内開発用装置"LUNA"を建設し、各種試験を行なっている。

LUNAは"低コストで安定した光を短期間に開発する"と言う方針に基ずいて計画 され、その結果低エネルギー入射で常伝導電磁石を用いた四角形リングをえらぶこととなっ た。800MeV蓄積型シンクロトロンでの入射、蓄積の容易化のためには、入射エネルギ ーは高いほうが望ましい。一方、装置のコンパクト化および価格を考慮すると、エネルギー は低いほうが望ましい。これら両者の要求を考慮して、リニアックのエネルギーを45Me Vと設定した。シンクロトロンで捕獲可能なビームを供給する必要から、このほかの入射ビ ームへの要求特性が決められた。

装置の設計製作は1989年4月に完成し、放射光の取り出しは1989年12月に 成功した。現在SRシステムは当初の目標ビーム仕様を満足し、シンクロトロン放射光を使 用した基礎的試験を実施している。[1] [2]

装置の全体構成を図1に示す。

2 現状

(1) システム

SRシステムのビーム性能 の現状値を表1に示す。

	目標仕様	測定值
蓄積エネルギー	800MeV	800MeV
電流値	50mA	50mA
寿命	30min.	60min.

表1 ビーム性能現状値

(2) リニアック

リニアックの目標仕様と実験結果の対比を表2に、ビームローディングの測 定結果を図2に示す。図2より無負荷では60MeV以上のエネルギーがえら れることがわかる。

リニアックの構成を図3に示す。

3 今後の予定

今後はマシンスタデイを通じて蓄積電流と寿命の増加を計ると共に、光利用を積極 的に進める予定である。リニアックとしては、同一エネルギーでの加速管全長の短縮化を 図るために、加速管電界の向上を図っている。50cmのモデル加速管を試作し、大電力 試験を行なった結果、25MeV/mの電界強度をえている。





表2 リニアック性能現状値



300







参考文献

[1]S.Mandai et al., "Development of Compact Synchrotron Light Source for X-ray Lithography", The 3rd International Conf.on Synchrotron Radiation Instr., Tsukuba, Japan, 1988
[2]N.Kaneko et al., "45 MeV Linac for the 800 MeV Synchrotron Radiation Light Source", Proc. of the 1991 Particle Accelerator Conf., San Francisco, USA, to be published